

27L-pm10

マウスの帯状疱疹痛と帯状疱疹後神経痛の動的触アロディニアに対するグリシントランスポーター阻害薬の効果

○西川 幸俊¹, 佐々木 淳¹, 安東 嗣修¹, 白木 公康², 倉石 泰¹ (¹富山大院薬
応用薬理学, ²富山大院医 ウイルス)

[緒言] 近年, 創薬の標的分子としてグリシントランスポーター-glycine transporter (GlyT) が注目されている。本研究では, GlyT 阻害薬が帯状疱疹痛と帯状疱疹後神経痛の治療薬となる可能性についてマウスモデルを用いて検証した。**[方法]** 雌性 C57BL/6j 系マウスを使用した。単純ヘルペスウイルス I 型(1×10^5 pfu/site)の経皮接種により帯状疱疹痛と帯状疱疹後神経痛モデルを作製し, 画用絵筆で後肢足底部をなでて惹起される疼痛陽行動で動的触アロディニアを評価した。比較対象の疼痛モデルとして, 1%ホルマリンを後肢足底部に皮下投与し, 発現する疼痛関連行動の時間を測定した。GlyT1 阻害薬 sarcosine と GlyT2 阻害薬 ALX1393 はそれぞれ生理食塩水と 25% 2-hydroxypropyl- β -cyclodextrin 溶媒に溶解し, 5 μ l の容量で脊髄くも膜下腔内に投与した。**[結果・考察]** Sarcosine (30 μ g/site)はホルマリン誘発疼痛様反応を抑制したが, 帯状疱疹痛と帯状疱疹後神経痛の動的触アロディニアには無効だった。したがって, GlyT1 阻害薬の効果は疼痛のタイプに依存するといえる。一方, ALX1393 (3 μ g/site)の脊髄くも膜下腔内投与は, ホルマリン誘発疼痛様反応だけでなく帯状疱疹痛と帯状疱疹後神経痛の動的触アロディニアも抑制した。**[結語]** GlyT2 阻害薬は帯状疱疹による動的触アロディニアの新規治療薬となる可能性が示唆される。